

# 第 5 章

## 英英辞典とGoogle 検索で wiseの謎を解明する

### ■ *Introduction*

この章では、英英辞典とともに Google の「画像検索」機能を駆使しながら、wise と clever と intelligent の使い方に迫ります。またまた、ネイティブのご宣託を批判する章となっております。

## Google の「画像検索」はこんなに役立つ

2022年に心をゆすぶられた映画、そして原作小説は *Where the Crawdads Sing* でした。邦題は『ザリガニの鳴くところ』です。

crawdad という単語は、よほど詳しい辞書でないと出ていません。Merriam-Webster's Collegiate Dictionary によれば

**crawdad: CRÁYFISH — used chiefly west of the Appalachians**

(crayfish と入れ替えがきく。おもにアパラチア山脈の西側で使われることば)

ちなみに、ストーリーの舞台となっているのはノースカロライナ州の湿地帯なので、アパラチア山脈の東側ではあります。

動物や植物をあらわす英単語は、なまじっか英和辞典をひいて和訳語で脳をかき乱したくない、とわたしなどは思うのです。crawdad なり crayfish という単語にふれて、ふわっと画像が浮かぶほうがすてきだと思いませんか。

自然描写のうつくしい *Where the Crawdads Sing* を読むときも Google 画像検索が重宝しました。画像検索すると、crawdad は野生のままに精悍で、crayfish は水槽生活が長いのかズングリもっさりしています。Google 画像検索の結果は、単語のニュアンスもあぶりだしてくれます。

知らない植物や昆虫その他の動物の英語名が登場するたびに、英和辞典ではなく Google 画像検索で「どんな姿をしているのか」確認すると、小説を読む楽しさが増しました。

## 表現の検証に Google 画像検索を活用してみる

p.065の桃太郎の英文に戻ります。本文の最後に、こうあります。

The next morning, a cute baby was born out of the fruit, who turned out to be thoughtful and wise.

この英文の最後の wise にイチャモンがつかました。「子供が賢い」ときは wise ではなく clever や intelligent を使うものだ。

『新版 日本人に共通する英語のミス 151』(2020年刊)の108ページに、こうあります。

× My four-year-old nephew is very wise.

wise は判断力に優れ正しい決断ができるという意味です。「人が wise である」と言ったら、その人が成熟していて経験が豊富であるという意味合いが含まれているので、子どもについて表すときに wise という語はめったに使いません。物覚えが速く理解力があるという意味で「賢い」と言いたいときは、clever や intelligent を使います。

○ My four-year-old nephew is very clever.

(私の4歳のおいとはとても賢い)

4歳児のことを wise と言うのがバツなら、まして赤ん坊の桃ちゃんのことを wise と言うのは断じて許されないというのが、同書のお説ということになりましょうか。

“wise baby” “clever baby” “intelligent baby” でもって件数比較すれば、同書のお説が正しいかどうか答えは一発で出ます。ここは、結論を急ぐ前に回り道を楽しみましょう。

先ほど crawdad と crayfish を Google 画像検索しました。ここでは “wise baby” “clever baby” “intelligent baby” を同じく画像検索してみましょう。

### “wise baby”

画像検索結果のトップは書籍の表紙です。

*The Wise Bábby: 9 Proven Strategies to Make Your Child Become a Bábby Wise in Just 1 Wéek* (賢い赤ちゃん：あなたの子供をわずか1週間で賢い赤ちゃんにしてくれる実証済みの9つの手立て)

本のタイトルになるくらいだから、表現的に OK というべきでしょう……。

検索結果の2つ目と3つ目は、赤ん坊に老人めいたあごヒゲを生やさせたコミカルな合成写真。「baby が wise というと、“年寄りの baby” みたいなんだよね」とばかりに。たしかに “wise man” で画像検索すると、神話かおとぎ話に出てきそうな、白髪に長いヒゲの老人ばかり。“wise woman” で画像検索すると、これまたほとんどが老女です。『英語のミス151』が wise には「成熟していて経験が豊富であるという意味合いが含まれている」と言ったのも、うなずけるところです。

しかし画像検索の結果をさらに見ていくと、ごくふつうのベビー写真が続きます。a wise baby という表現は、ぜんぜん「あり」だろ!と直感させてくれます。

### “clever baby”

画像検索結果の2位と4位は、*Clèver Bábby* と題した本の表紙。この2位と4位は別々の本です。先ほどの wise baby も書名になっていましたが、clever baby もまた本のタイトルになるくらいですから、文句なしに OK だ……。

しかし、です。検索結果トップ10のうち5つの画像の赤ん坊が、

不自然に大きな黒縁の眼鏡をかけているのです。検索結果11位の赤ん坊は、おむつをつけて黒板の前に立ち、高等数学の数式を書いています。先ほどの wise baby のアゴひげベビー以上にコミカルです。

### “intelligent baby”

検索結果トップ10のうち4つの画像のベビーが眼鏡をかけ、2つの画像では学者の象徴である角帽をかぶっています。検索結果3位の画像の赤ん坊は、自宅の壁に微分や三角関数の数式の落書き中……。どうも intelligent baby の知能指数は clever baby よりもさらに高そうです。

このように、Google 画像検索を使えば、英語表現がもつニュアンスを日本語を介することなく大づかみにすることができます。英英辞典の機能を補うものとして、ときどき利用してみたいかがでしょう。

